

## 2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

中央中学校区	校番 1	福山市立 東 小学校
最終更新日		2025年(令和7年)4月11日

## I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、  
 日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

## 前年度学校関係者評価の主な内容

- ・中学校の不登校生徒が増加している傾向にある。校区としての取組を進めてほしい。
- ・小中学校の授業参観から子ども主体の学びを育む様子が感じられた。引き続き子どもたちの主体性を育む取組を進めてほしい。
- ・評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できるという肯定的評価をいたしており、引き続き努力してほしい。

## 児童生徒の現状

- 各学校において、子どもの主体の学びづくりの中で主体性が育ちつつある。
- 小中で授業研究をすすめ、自分の考えをもち深め、対話する力をつけてきている。
- 全国学力調査の結果から特に中学校における数学、国語の力を伸ばす必要がある。
- 不登校傾向にある児童生徒数の出現率が中学校で高い。

育成する力  
資質・能力めざす子ども像  
(義務教育修了時の姿)

## 【学びに向かう力】

## 【課題発見・解決力】

## 【自己肯定感】

ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している

中学校区として  
統一した取組等

- 1 校区合同で実施する授業研究
- 2 中学校生徒会による「学校紹介」の実施
- 3 校区校長会、校区教頭会、校区各主任会等を通しての連携

## III 自校

## ミッション

「知・徳・体」調和のとれた育成

## 学校教育目標

自ら考え、たくましく生きる子の育成

## 現 状

## &lt;児童&gt;

- 自分にできることを考え、表現したり行動したりしようとする児童が、少しずつ増えてきている。

- しかし、上記の現状は、全校児童を単位としてとらえた場合、課題である。

## &lt;授業&gt;

- 児童は、課題を解決しようと様々な方法を取り入れようとしている。

- 教諭は、教材研究を大事にして授業改善を進めようとしている。

- 教諭が、教えること、児童を見守ること、児童に任せること等について明確にならず、戸惑うことがある。

育成する力  
資質・能力めざす  
子ども像

## 学びにむかう力

## 課題発見・解決力

## 自己肯定感

## 低学年

目標を決め、自らを振り返りながら取り組む。

友だちの考えをしっかり聞き、自分の考えをもつ。

友だちと関わり合いながら、自分の良いところに気付く。

## 高学年

目標を決め、自らを振り返り、学び続ける。

自ら「問い合わせ」を見つけて、自分なりの工夫をしながら課題解決をしていく。

自分の良さ、友だちの良さに気付き、自分のやりたいことに挑戦する。

## 研究

## テーマ

「学ぶ意欲の向上と基礎的な知識・技能の習得」

## 内容等

基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、思考力・判断力・表現力等を育成する。

めざす  
授業の姿

- ・学習指導要領に基づき、付ける力を明確にした授業
- ・基礎的な知識・技能の習得
- ・学ぶ意欲を喚起するため、一人ひとりに考えをもたせるための「場の設定」
- ・学びを深めるための対話的活動

## IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 東 小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	加セス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加セス 評価	達成 評価	総合 評価
6	知 主体的 対話的で 深い学びの 推進	★	見 直 し	学習指導要領に 基づいた授業を 行うことで、児童 一人ひとりが基 礎的な知識・技能 を習得すること ができる。	教職員の専門性や 意欲に応じた授業 改善を通して、様 々な教科で授業 研究を行う。	1・2年生 国・算の学期末テ スト平均得点率 85%以上 3~6年生 国:社:算:理の 学期末テスト 平均得点率 80%以上								
2	徳 豊かで たくましい 心の育成		見 直 し	児童が、自己の課 題や挑戦したい ことを見つけ、自 分に合った解決 方法でたくまし く取り組んだり、 振り返ったりす ることができる。	学校行事や授業 で、自己決定の場 を設け、その取組 に対しての価値 付けを教員や児 童同士で行う。	児童アンケート 「自分で決めた ことや、自分の目標 に向かって取り組 み、以前よりも伸び た」肯定的割合 90%以上								
1	体 健やかで たくましい 体の育成		新 規	児童が主体的に 健康や体について 考え、体力の向 上を図ることが できる。	体育の授業や毎 日の体力づくり の宿題で、昨年度 課題だった柔軟 性を高める運動 に継続的に取り 組む。	「全国体力・運動能 力、運動習慣等調 査」の競技種目、「長 座体前屈」でB評価 以上の児童割合 80%以上								
1	教職員の 資質・能力 向上		新 規	児童が、元気・笑 顔で学校生活を おくることがで きるように、教職 員研修を充実さ せる。	授業改善及び児 童理解に向けた 研修を定期的(学 期に3回)に仕組 む。	全校児童数に対す る長期欠席児童数 の割合5%以下								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかつた。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多くなつた。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかつた。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかつた。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかつた。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかつた。